

# 細胞診断学的に判定に苦慮した 腹膜原発悪性中皮腫の一例

奈良県立医科大学附属病院病理部<sup>1)</sup> 同大学病理診断学講座<sup>2)</sup>

○田中京子(CT)<sup>1)</sup> 小関久恵(CT)<sup>1)</sup> 平山真央(MT)<sup>1)</sup> 田邊雅世(CT)<sup>1)</sup>

西川 武(CT)<sup>1)</sup> 武田麻衣子(MD)<sup>2)</sup> 榎本泰典(MD)<sup>1) 2)</sup> 笠井孝彦(MD)<sup>2)</sup>

野々村昭孝(MD)<sup>1) 2)</sup>

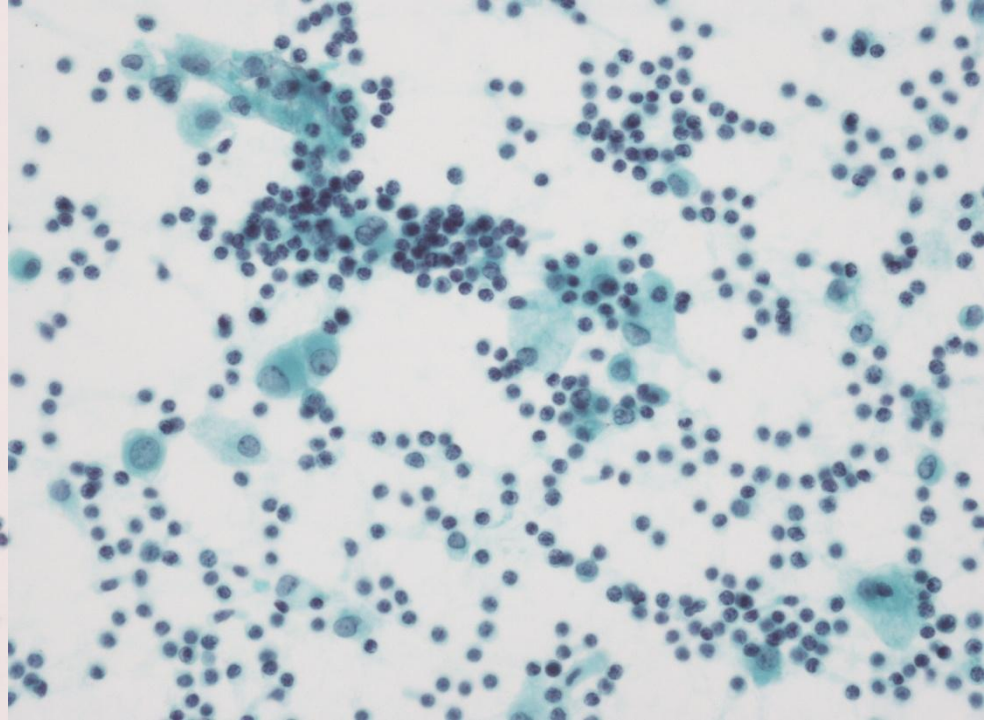
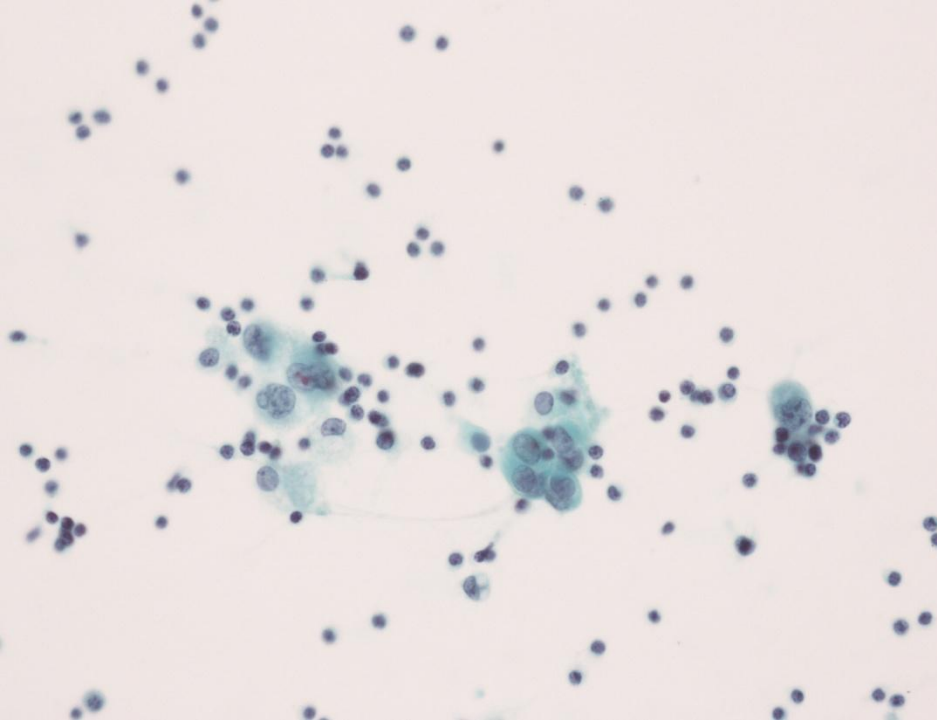
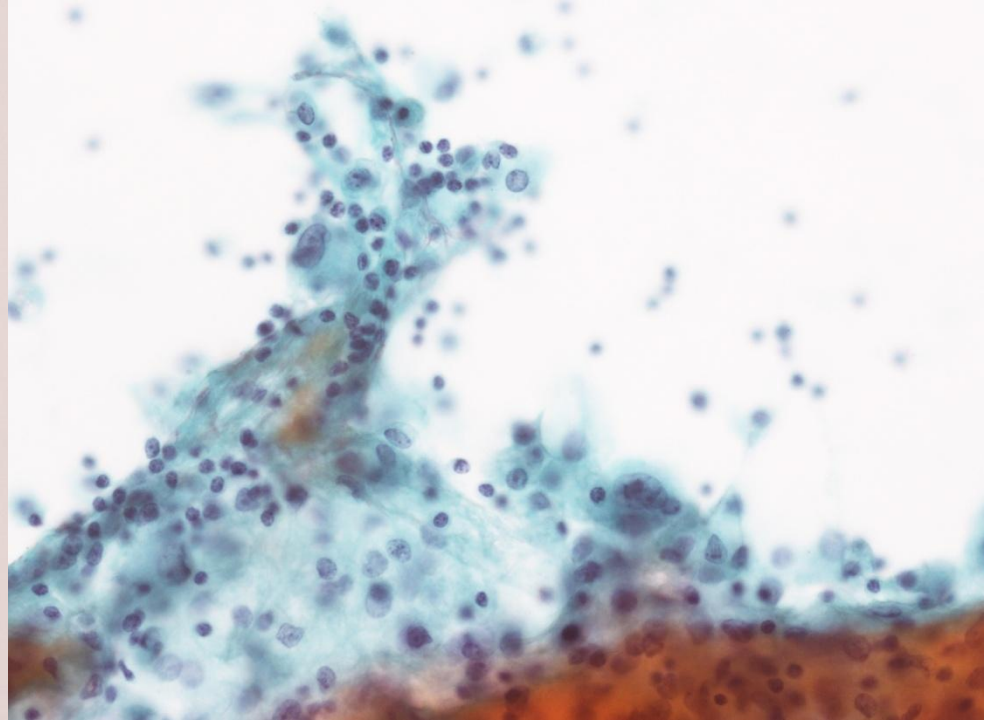
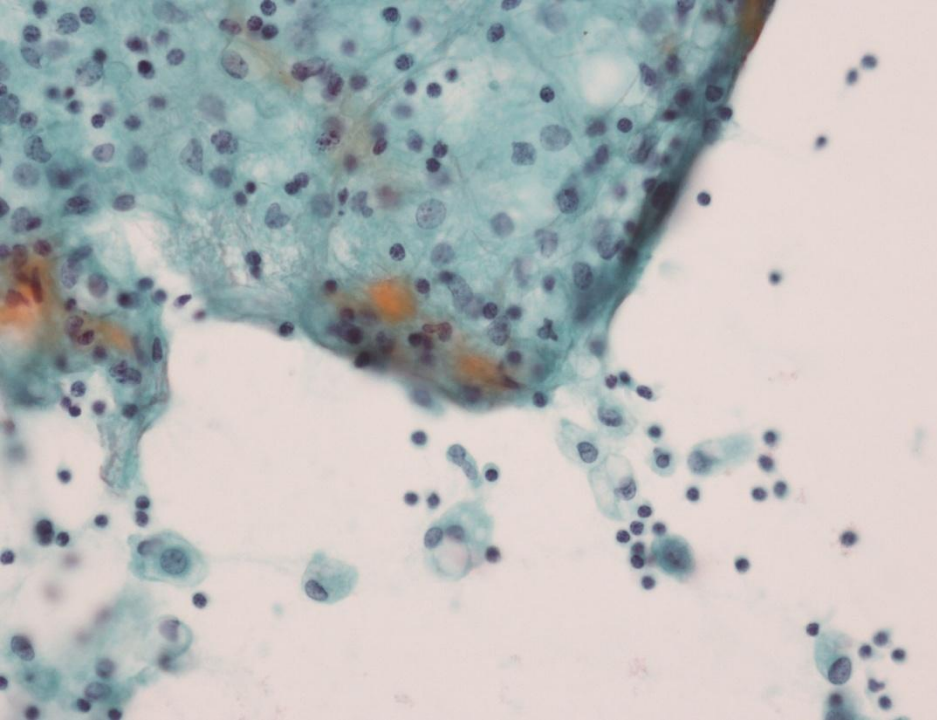
# 症例

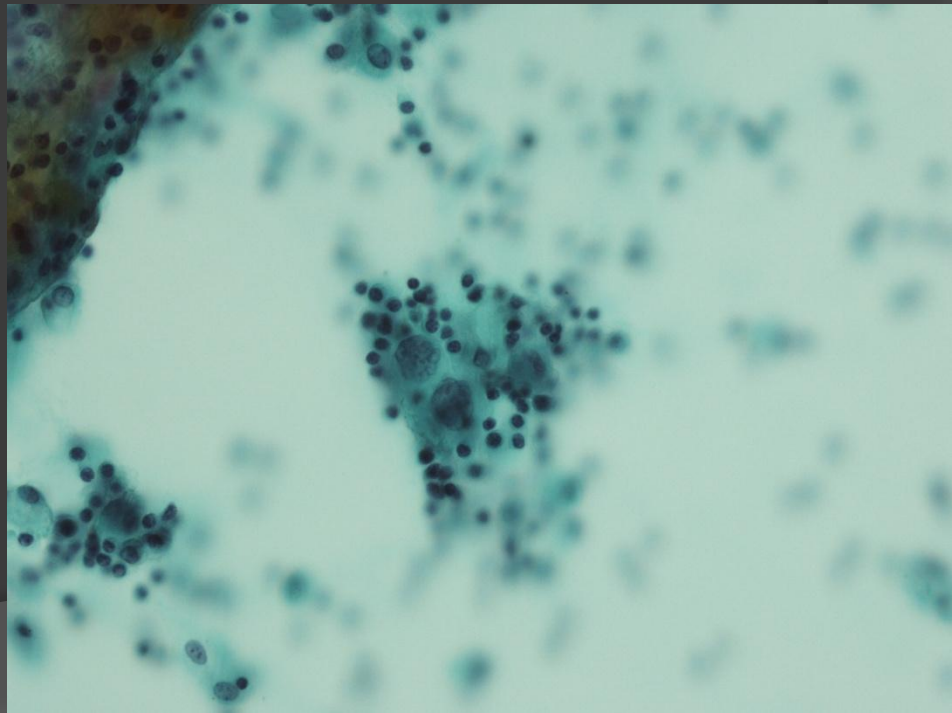
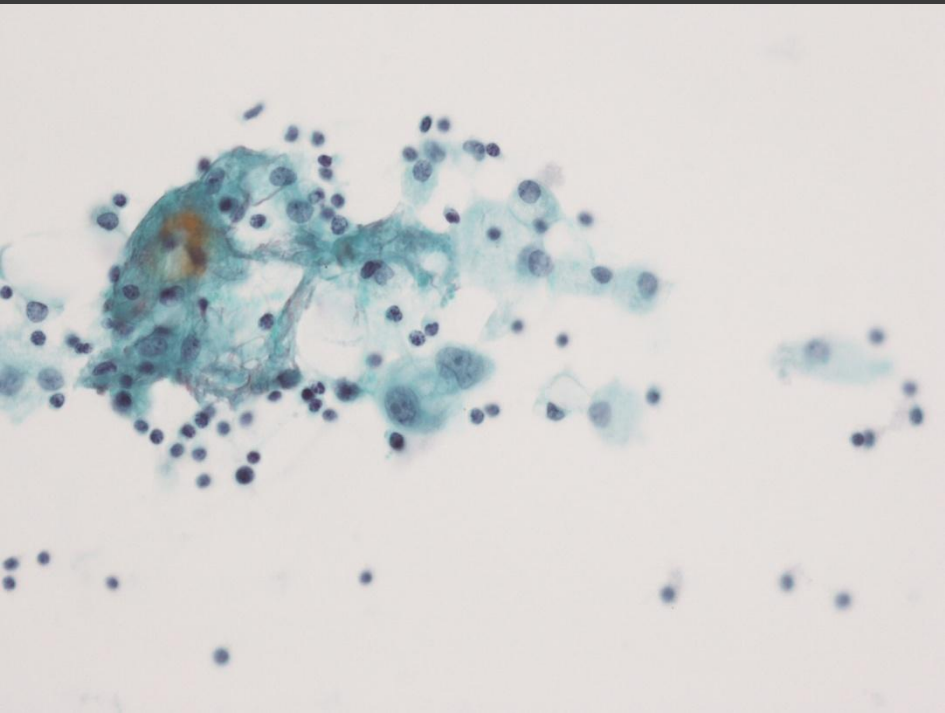
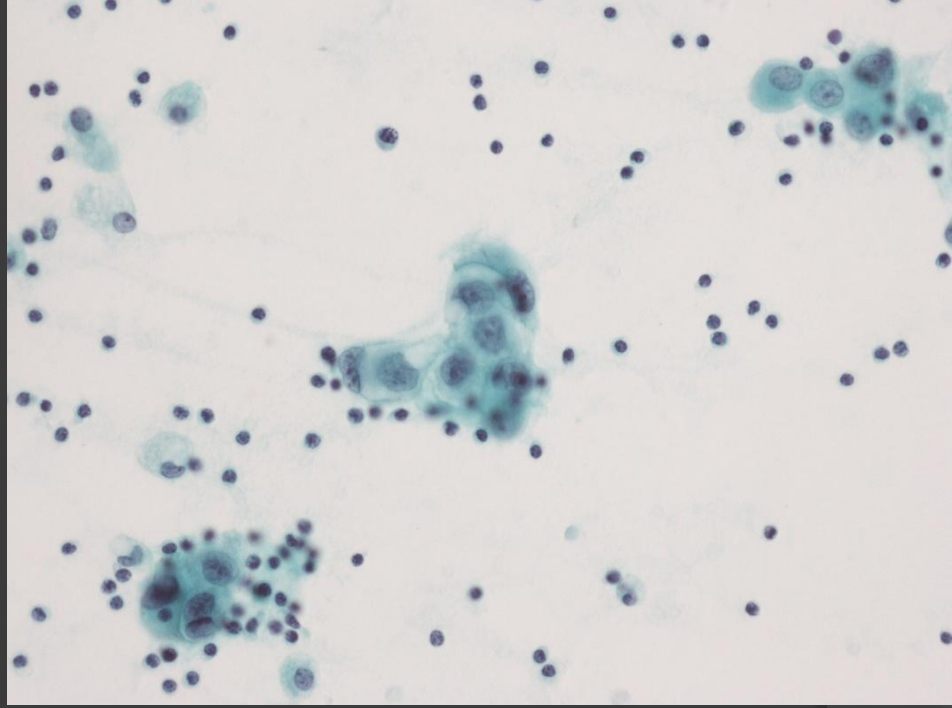
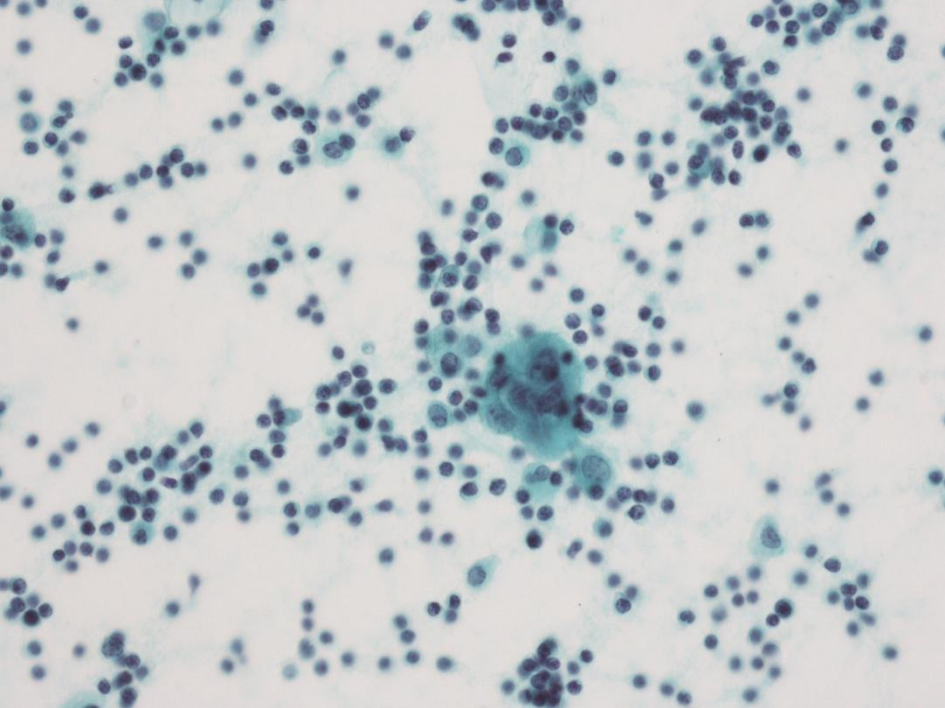
患者：58歳男性

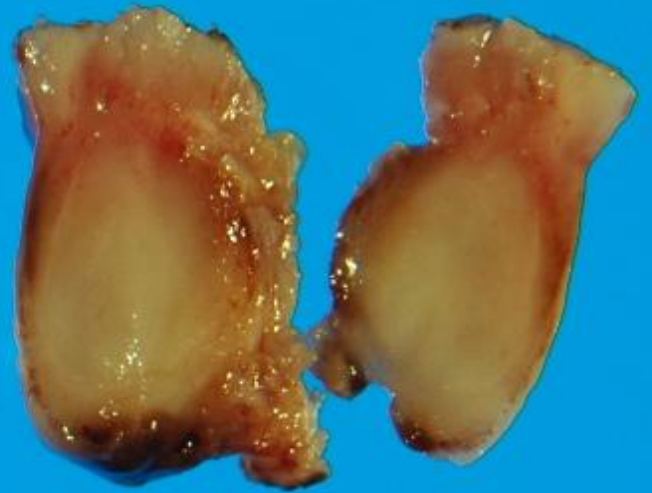
主訴：下痢、腹痛

現病歴：8月初旬より下痢が続き、腹痛も増強してきたため、近医に受診。腹部に臍を中心に小児頭大の腫瘤を触知し、これによると考えられるsub-ileus状態であった。入院後の精査では、CTで触知した腫瘤に一致して充実性成分を含む腫瘍を認め、外科的切除の適応と考えられ、当院消化器外科を紹介受診となった。小腸腫瘍・小腸間膜腫瘍s/oに対して腹膜生検が施行された。

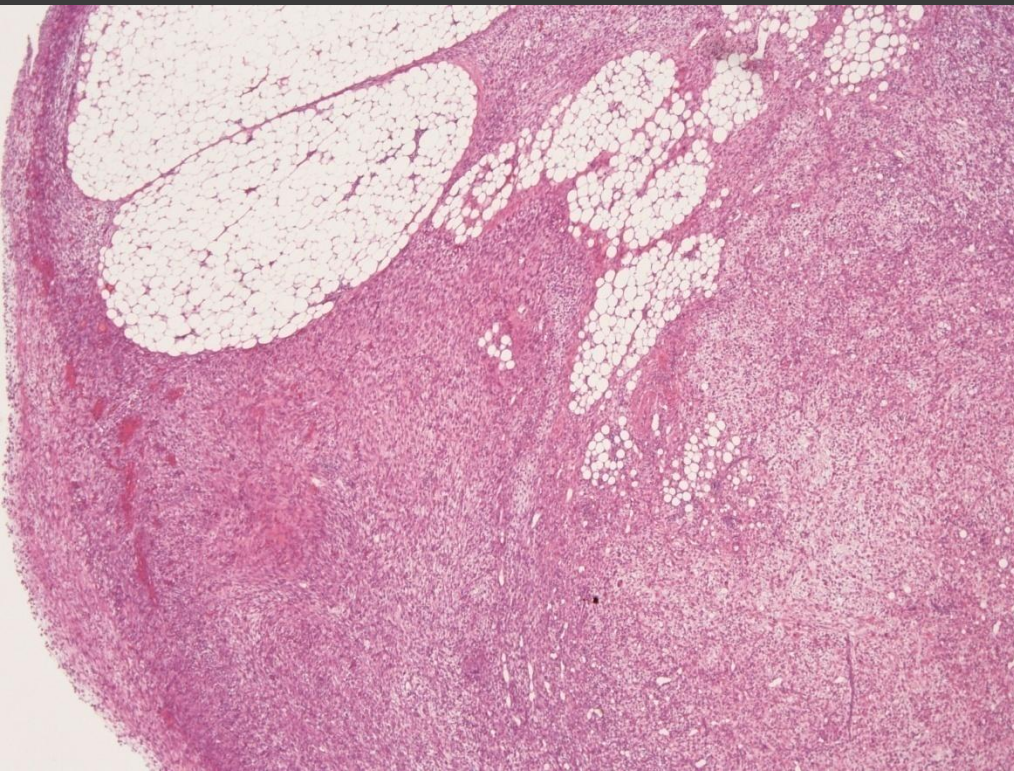
職業歴：20歳～27歳 兵庫県川崎重工勤務  
(アスベスト暴露の可能性あり)



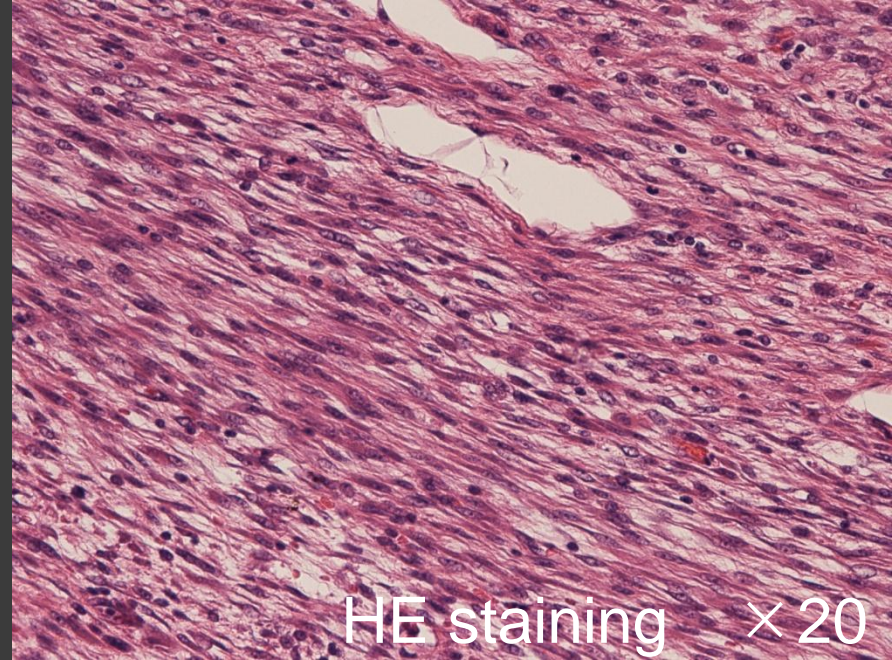




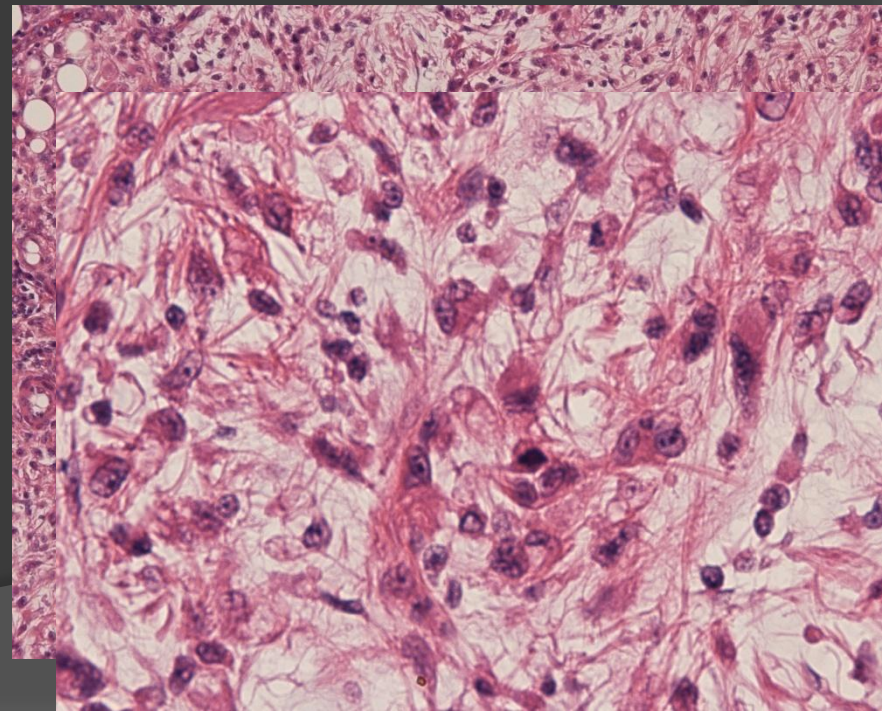
# 組織像

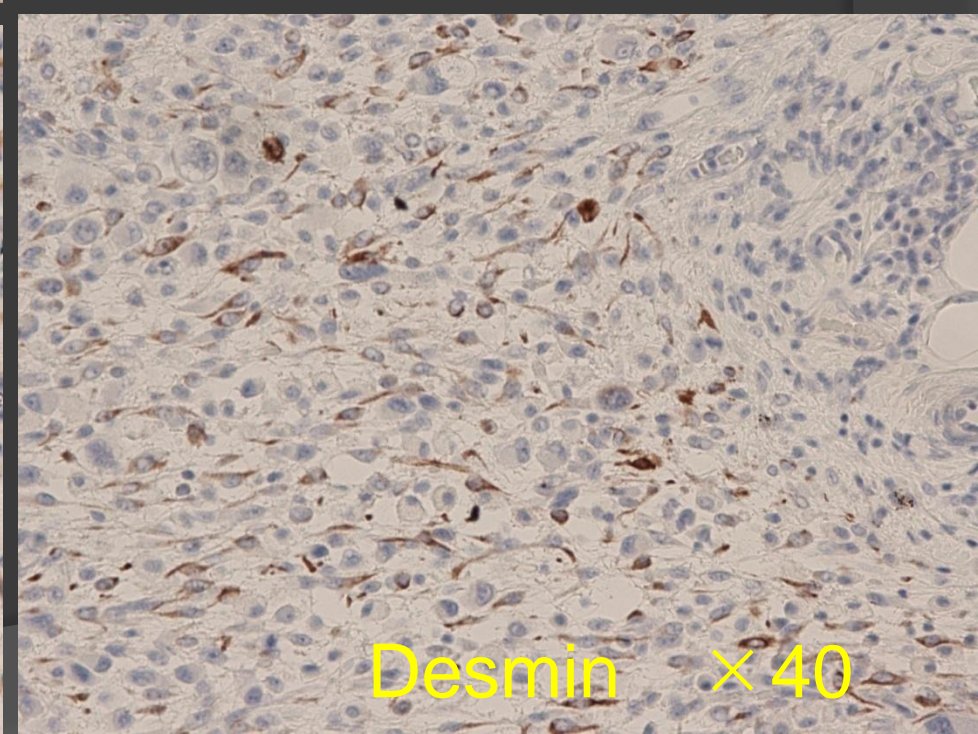
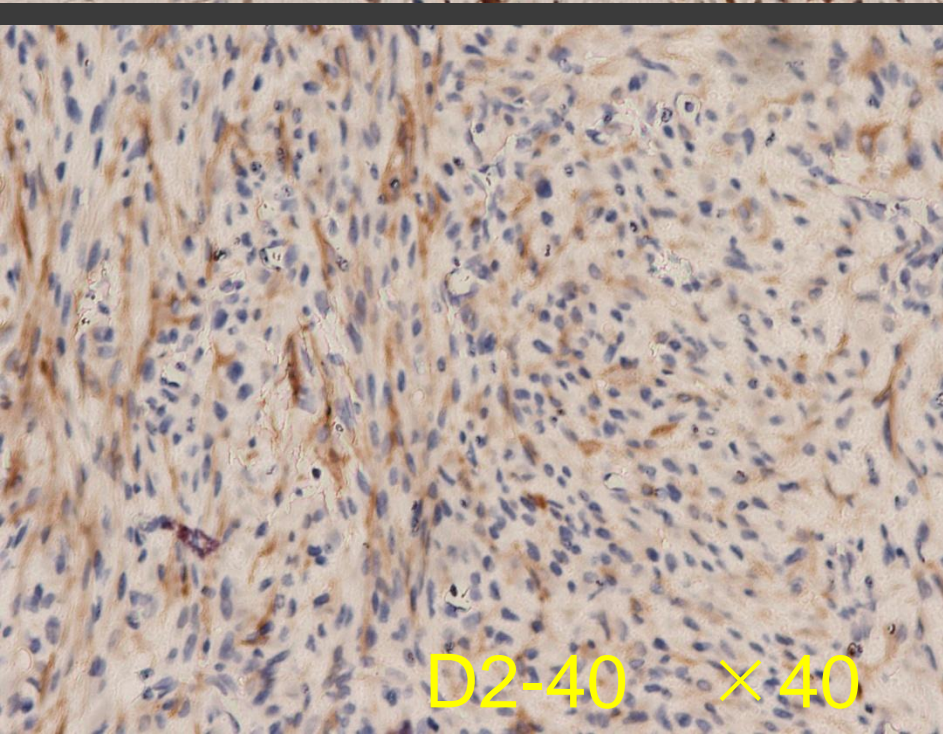
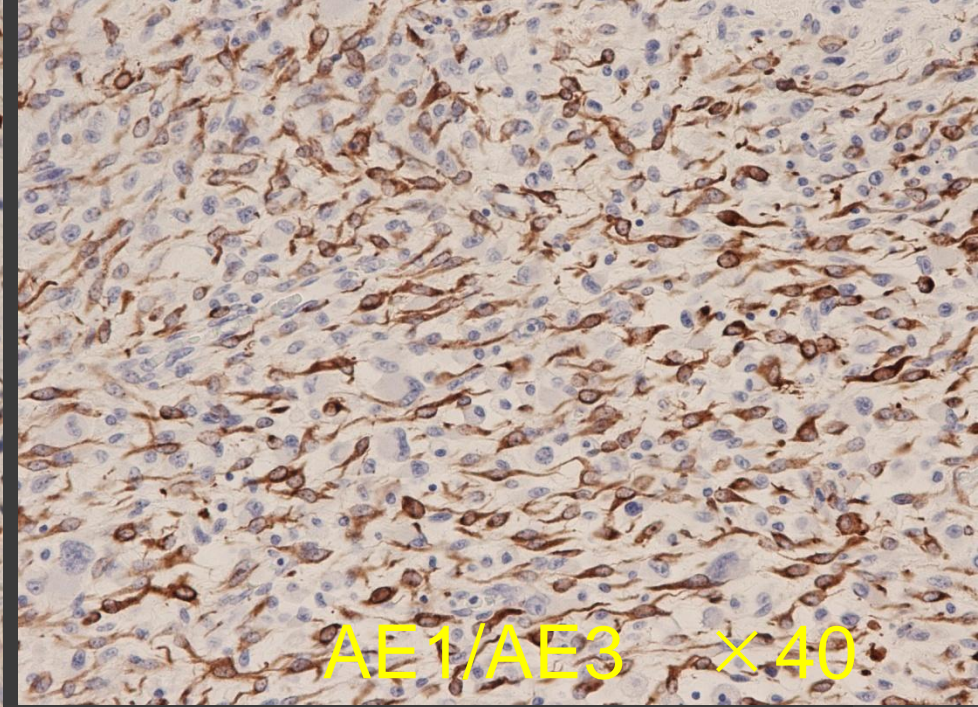
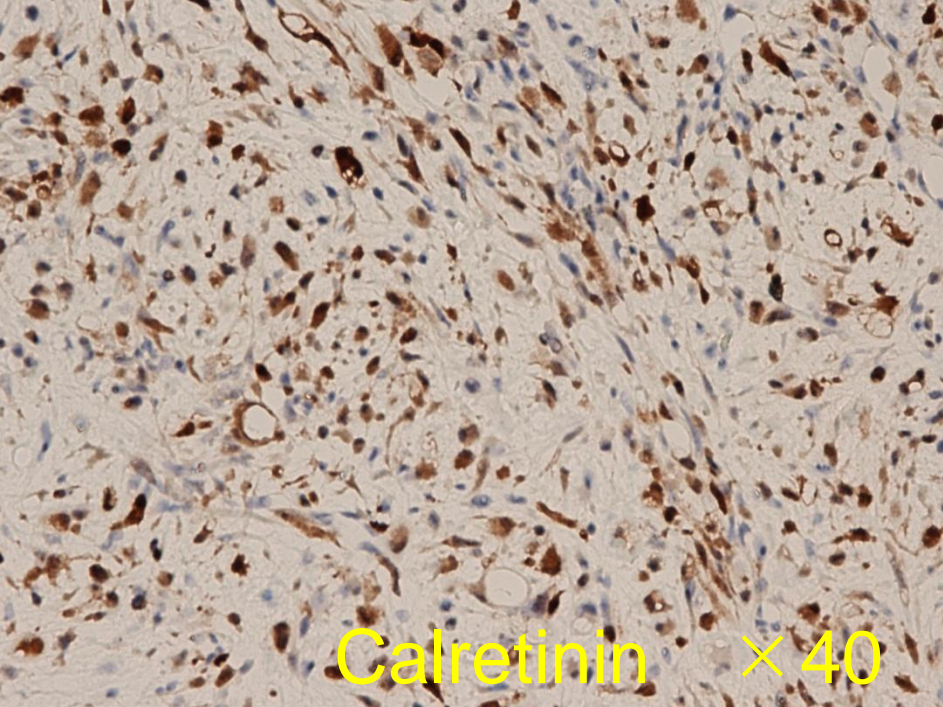


HE staining × 10



HE staining × 20





# まとめ

- ◎ 悪性中皮腫は増殖形態から、上皮型、肉腫型、二相型、その他に分けられる。今回、我々は、biphasic or sarcomatoid のmalignant mesothelioma を経験した。
- ◎ 腹水細胞診では、リンパ球優勢の炎症性背景に、集塊状～孤立散在性に多数の異型細胞が認められた。異型細胞は、核、胞体とも大型で細胞質はライトグリーンに好染し、やや泡沫状で空胞も見られた。  
異型が強く核縁の不規則な陥入や核小体が目立つ細胞も少数認めた。悪性の疑いと判断したが、確定診断は困難であった。
- ◎ 悪性中皮腫の診断は、細胞像のみから鑑別することは困難であり、腹膜生検およびそれらの免疫染色が有効であった。